

助成事業実施報告書

団体名 焼津災害支援ネットワーク
代表者氏名 伊藤弘泰

1. 助成プロジェクト名

真如苑助成金で充実した防災・福祉活動の向上を目指そう

2. 実施団体の概要（創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など180文字程度まで）

災害発生時のボランティア活動を通して、地域社会に貢献することを目的にした組織で会員数は6名です。

3. プロジェクトの目的とその背景（※応募申請書に記載のものでも可）

大規模災害発生の可能性が高まっている現在、私たちには自然災害に対する防災意識の向上と具体的な防災の実施が求められています。その方法の一つとして、会員の知見を高め、それを地域社会に還元することが必要であると考えました。

4. プロジェクトの内容（※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可）

- ・会員の知見を高める活動
DIG 災害図上訓練 一人イメージTEN 出前講座 地域防災指導員中級養成講座
段ボールトイレ製作講習会 感染防止エプロン作成講座 静岡県VC 図上訓練
- ・地域社会への還元活動
市民トリアージ研修会（応急手当の具体も含む） 感染防止エプロン作成講座
地域防災訓練

5. プロジェクトで得られ「結果」(OUTPUT 実施回数や参加者数など)「成果」(OUTCOME 事業によって生まれた直接的な変化)「社会的変化」(IMPACT 事業が社会に与えた影響)などの『効果』

講習会や研修会等には31名が参加し、防災に関わる知見を高めることができました。また、地域住民46名に講演や講習を行い会員の知見を還元することができたと考えています。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など

安田清先生を講師に「市民トリアージ」研修会を実施しました。この研修を通して、災害の被害想定値に対して実際対応できる数値の乖離が著しいことを実感し、市民によるトリアージの必要性を痛感しました。また、「災害は忘れた頃にやってくる」と言います。防災意識の向上や発災後の対応を他人任せにしないという共助の認識を高めるためには、研修会や訓練・講習の継続的実施が必須です。今後も活動を継続していきたいと考えています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし